

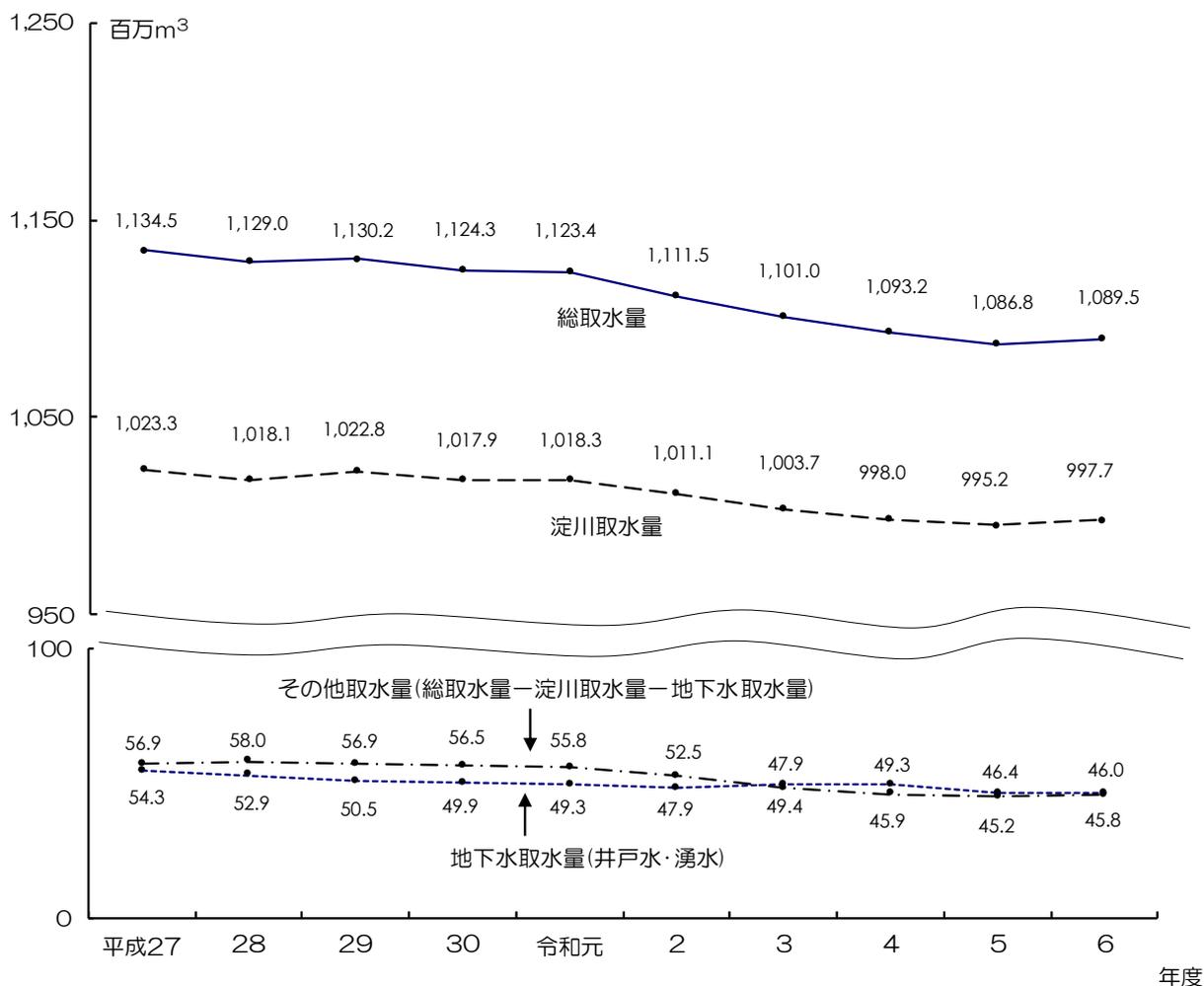
(2) 年間取水量と水源内訳

年間取水量は平成4年度の1,419.0百万m³をピークとし、以降は減少し続けていたが、令和6年度の年間総取水量は1,089.5百万m³で、令和5年度より2.7百万m³増加した。(図-5)

府内の取水源は淀川を除き、ほとんどが中小規模の河川であり、流域面積が小さく、流況も不安定になっている。全取水量に占める淀川以外の表流水の割合は令和6年度で約4.2%(45.8百万m³)と少なく、地下水の取水量について近年は横ばいとなっている。

このため、大阪府の水道水源は、上流に琵琶湖をもつ淀川に大半を依存しており、その依存率は令和6年度で91.6%に達し、現在、大阪広域水道企業団並びに大阪市、吹田市、枚方市及び守口市が淀川から取水している。

図-5 上水道の水源別取水量（用水供給を含む）



なお、大阪市を除く市町村水道の大阪広域水道企業団からの受水量は、令和6年度は503.0百万m³である(図-6)。その依存率は76.2%で、近年は横ばい傾向となっている(図-7)。

図-6 上水道の年間取水量

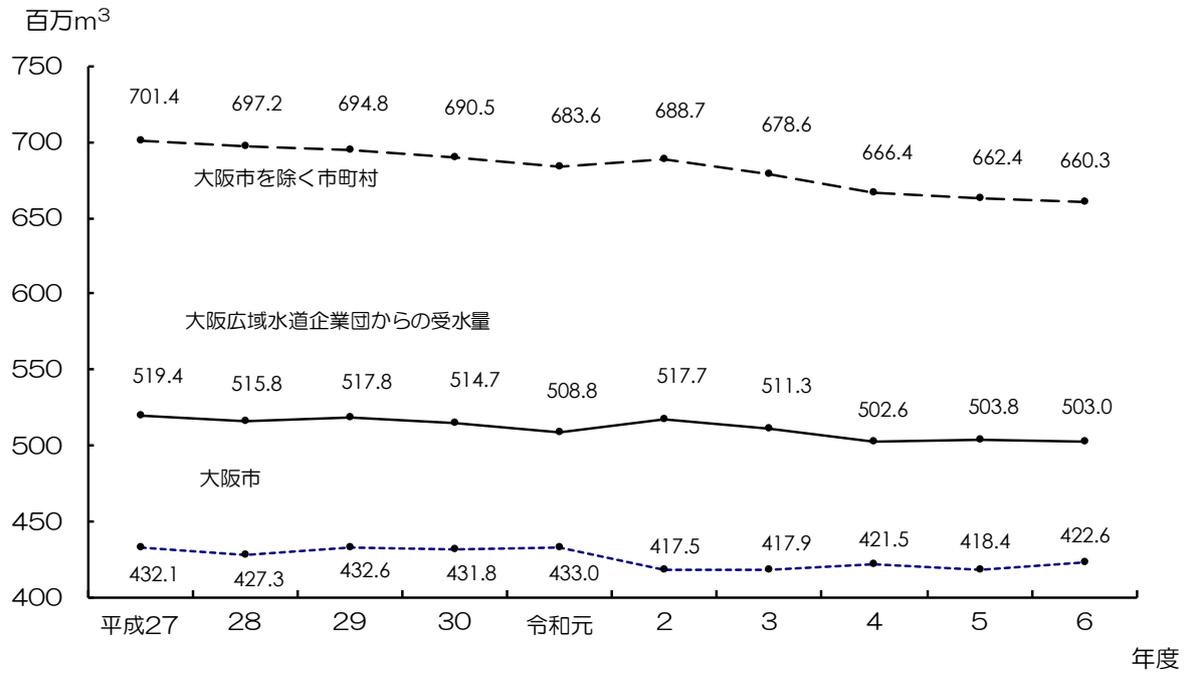


図-7 大阪市を除く市町村上水道の企業団水依存率

